

☆県立特別支援学校の看護師、県内小中学を巡回へ

朝日新聞デジタル 神奈川 2017年6月26日

<http://digital.asahi.com/articles/ASK6N535PK6NULOB01F.html>

> 一般の学校に通いながらも「医療的ケア」が必要な小中学生への対応策として、県教育委員会は年度内にも、県立特別支援学校の看護師が県内小中学校を巡回し、必要に応じて医療的ケアをする計画作りに着手する。看護師などの介助者がいない学校では保護者が常に付き添って対応しなければならず、負担の大きさが問題となっていた。

県議会代表質問で、自民党の長田進治氏の質問に桐谷次郎教育長が答弁した。

文部科学省の「特別支援学校等の医療的ケアに関する調査結果」によると、昨年5月1日現在で、小中学校と特別支援学校などに通いながら医療的ケアを受ける県内の児童・生徒は499人。医療的ケアは、気管切開が理由のたん吸引のほか、胃ろうのような経管栄養の注入や導尿対応などが挙げられるが、いずれも身体障害者の認定基準に当てはまらず、特別支援学校への進学などは難しい。

横浜・川崎両市の特別支援学校には看護師がおり、対象児童・生徒が在籍する市内小中学校に派遣されている。ほかにも藤沢、三浦、厚木、海老名、小田原、川崎の6市が市単独で対象児童・生徒がいる小中学校に看護師を配置するが、残りの市町村の小中学校には介助者がおらず、保護者が対応している。

県教委はこれらを踏まえて、全28校の県立特別支援学校のうち15校などに配置されている看護師計40人を、介助者がいない学校に巡回して医療的ケアの対応が出来ないか検討する。

県教委によると、学校の設置者が県と市町村で異なり、かかる費用の違いなどから全国でもあまり例がない対応とされる。だが、学習指導要領で特別支援学校は専門性を生かして地域の小中学校を支援する「センター的機能」が求められているのを踏まえた措置だという。…などと伝えています。

△神奈川県議会HP 神奈川県議会 平成29年第2回定例会 本会議の質問議員と質問項目

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/gikai/p1145554.html>

> * 6月16日(金曜) 代表質問 長田 進治 議員 (自民党) <分割質問>

4 県政の諸課題について

- (1) 政府が定めた骨太の方針に示された森林環境税について
- (2) 県が所有する美術品の適正な管理について
- (3) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた本県の取組について
- (4) 県立戦没者慰霊堂及び戦没者追悼式における安全対策について
- (5) 医療的ケアを必要とする児童・生徒への支援について

* 同議員質問は、インターネット議会中継 映像配信でも観れます

http://www.kanagawa-pref.stream.jfit.co.jp/?tpl=gikai_result&gikai_id=43

6月16日(金) 代表質問 自民党 長田 進治 議員 再生部分をクリックで